

I 6月例会の報告

6月29日 東大で小口,小野両氏の発表が行われた(参加者10名)。今回は,小口氏から阿蘇カルデラ壁基部の緩斜面が周氷河作用によって形成されたことが指摘され,また,小野氏からは韓国における扇状地の対比,編年について議論がなされた。ともに寒冷地形としては,今まで顧みられなかったフィールドであり,日本列島西方の気候地形を考える上で有意義な発表であった。

II 「夏の学校」のお知らせ

前号で予告しましたとうり,下記の要領で白山で行います。
今回は参加申込の必要はありません。適宜御参集下さい。

・日程 8月18日(日)～8月20日(火) ▶泊寝具付素泊り:2800円

18日別当出合→室堂(室堂センター泊)(付近幕営不可)

19日室堂→御前峰→大沢峰→室堂(〃)

20日室堂→別当出合

・案内者:守屋以智雄氏(金沢大),高橋栄一氏(金沢大附属高)

・みどころ:雪田,階状土,氷河地形(?),火山地形 など

・地形図:2.5万「白山」「新岩間温泉」「加賀市,瀨

・集合日時・場所 8月18日午前8:30 別当出合 バス停前

・集合場所への交通

<東京方面>

上野 急行「能登」 金沢 別当出合
21:01 5:54
北陸鉄道バス 8:15

<関西方面>

大阪 急行「能登」 金沢 別当出合
23:37 4:20
5:00 北陸鉄道バス 7:05

★山麓の市,瀨(別当出合よりバスで30分金沢より約33)に宿泊施設あり。

・もちもの:一般登山用具のほか

地形図,フルート,雨具,コッヘル,コンロ,氷筒

食糧 2泊3日分,非常食,行動食,酒等

・宿泊について:小屋のメシがまずいと,少量なことなどが今回は自炊をたてまえますが,面倒でしたら食事付(3食:2400円+)も可能です。ただし,酒,ビールは売ってないかもしれません。

III 「北上山地」巡検の予告

秋の岩手大での地理学会の直前,10月17日(木)～18日(金)に北上山地の寒冷地形に関する巡検があります(世話人:宮城,松垣両氏)。くわしくは次号。

阿蘇カルデラ壁の化石周氷河斜面

小口 高 (東大・院)

阿蘇カルデラ壁の全域にわたって分布する逆順斜面について報告する。

本地域の地形系は (i) cap rock - 崖錐斜面型 (ii) 岩屑斜面 - 埋積谷 - 扇状地・沖積錐型 に大別され^{*}、その特徴は次の通りである。

(i) cap rock - 崖錐斜面型

主として阿蘇火砕流の cap rock と、その下のカルデラ原に直接連する崖錐斜面からなる。崖錐斜面の堆積物は主に褐色火山灰 E matrix とする扇状地・扇状地の角~亜角礫層があり、その上にも中央火口丘のテフラと A_h 火山灰が覆う。次の根拠から、これを周氷河性斜面と考える。

① 堆積物の局相が河成とは思われず、斜面形成に関与したと考えられる河川も存在しないこと ② カルデラ壁の全域に広く分布すること ③ 礫が斜面方向に長軸を向けること ④ 礫層の間には含まれる卓斗里軽石 (AT の下位) との関係や、礫層の間に安定期を認めないことから、特定の火山活動等に対応する崩壊物噴とは考えられないこと ⑤ 斜面安定後に最初に堆積した全域が明瞭な腐植層 (A_h の下の黒褐色火山灰の下位) の ¹⁴C 年代が $11,500 \pm 100$ yr BP (TK-650) があること。

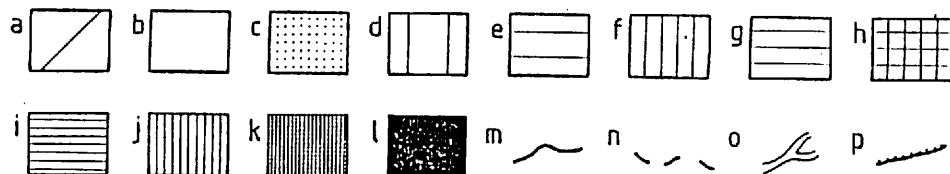
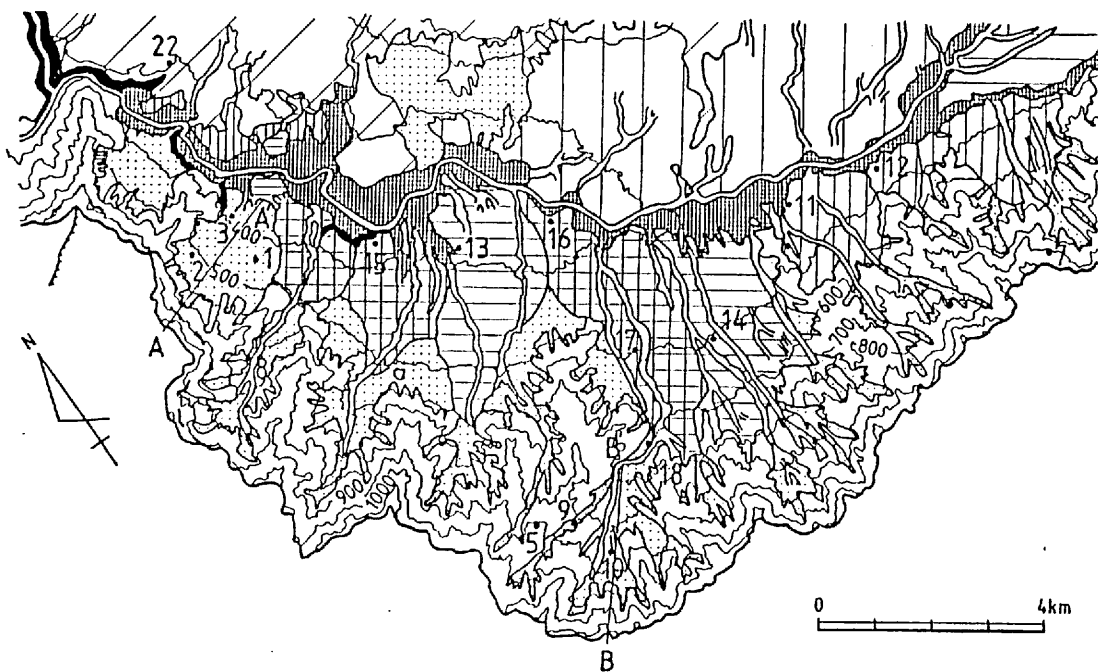
崖錐斜面は cap rock から凍結作用により崩落した礫が停止後、creep によって火山灰と混ざって形成されたと思われる。

(ii) 岩屑斜面 - 埋積谷 - 扇状地・沖積錐型

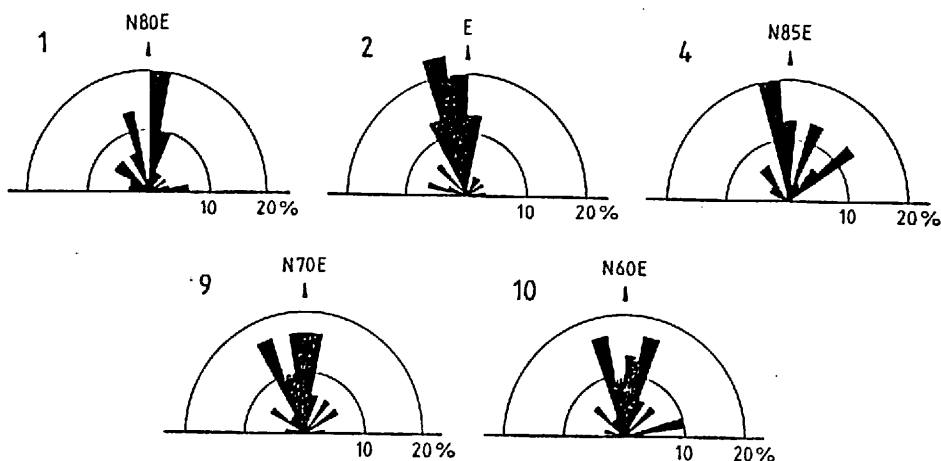
cap rock の分布しない地域、又は活断層の集中する地域に見られ、厚さ数 m の creep 性角礫層をもつ岩屑斜面の下に埋積谷、その下流に扇状地又は沖積錐が分布する。開析された埋積谷の原面は、形態が (i) の崖錐斜面に酷似しており、堆積物の特徴も同様であることから、周氷河性 creep によると考えられる。下流の扇状地・沖積錐の形成終了期は $10,000$ yr BP 前後と A_h 前後に大別され、後者の方が上流の埋積谷の分布が広い。従って、後氷期の埋積谷の開析による土砂供給量が、扇状地・沖積錐の形成終了期を決定したと考えられている。

前述の $11,500 \pm 100$ yr BP の腐植層より下位には、カルデラ壁のみならず中央火口丘においても明瞭な腐植層は見られない。これは火山活動や気温が低かったこと等によって、植生の定着が妨げられたことを暗示する。本地域は最終氷期を通じて森林限界以下であったと思われるが、植生が未定着であったために周氷河作用が卓越したと考えられている。

* French (1976) を参考にした。



a: Aso Central Cones b: Erosional Slope of Caldera Wall
 c: Periglacial Depositional Slope d: Fan at the Volcanic Foot
 e: Takamori Surface f: Fan 1 g: Fan 2 h: Fan 3 i: Alluvial Cone
 j: Kukino Surface k: River Terrace l: Cliff m: Caldera Rim
 n: Under Limit Line of Cap Rock o: River Channel p: Active Fault



寒冷地形学会 6月例会発表要旨, 1985. 6. 29

「韓国」の地形」

小野 有五 (筑波大. 地球科学系)

韓国では山麓緩斜面の発達がよく知られてきたが、それはすべてペディメントとして解釈されてきた。しかし今回、韓半島各地の山間盆地を調査した結果、その大部分は扇状地であること、また最終氷期には、北海道～中部日本と同じ時期に2回の扇状地形成期があることが明らかになった。

Fig. 1. 各地形面の縦断面・横断面模式図

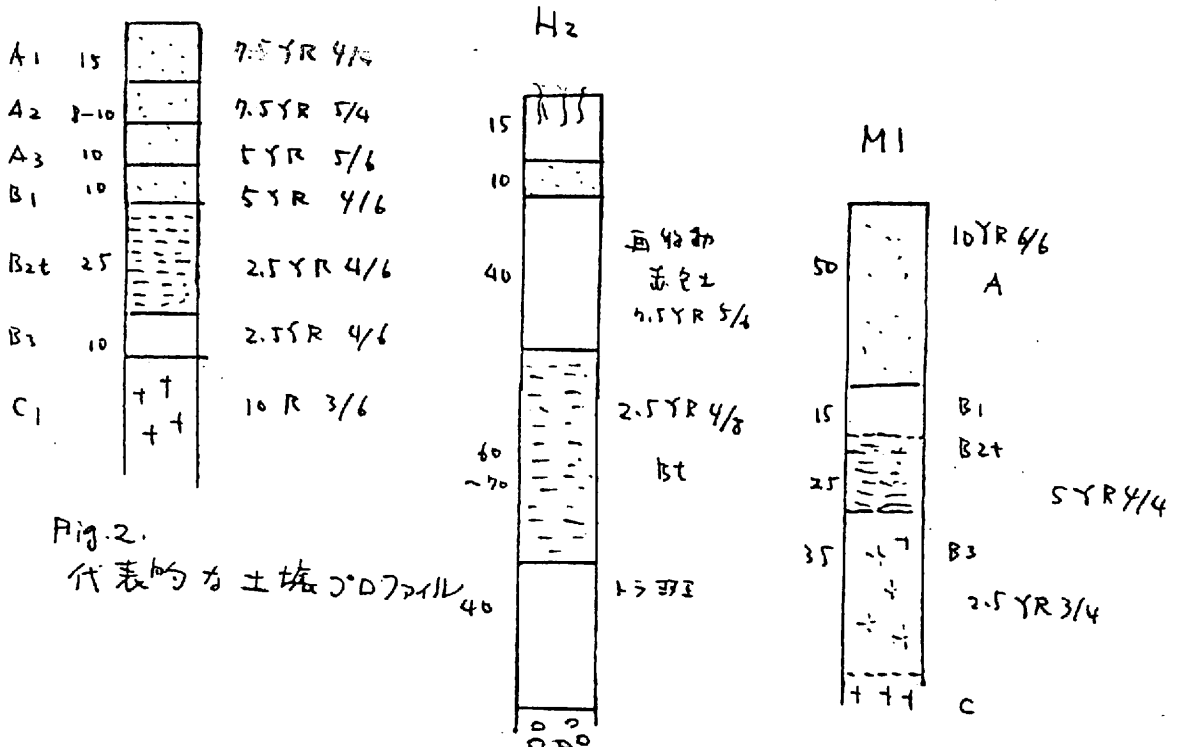
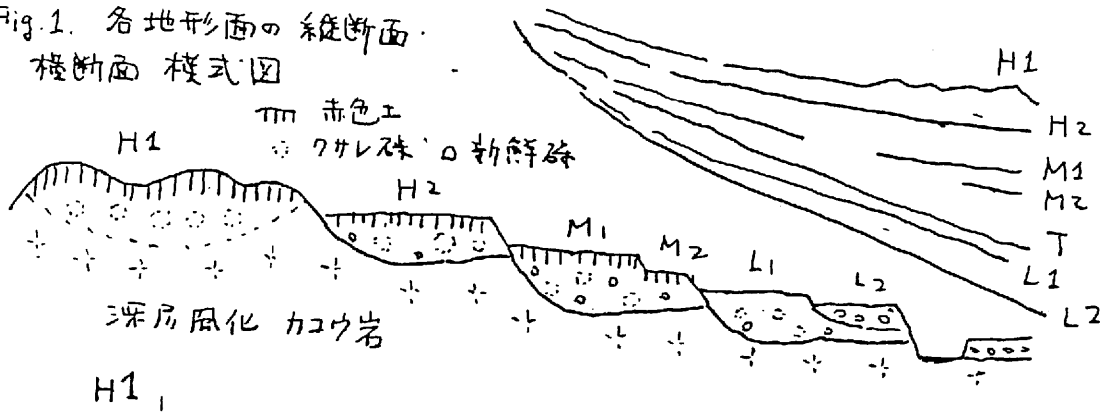


Fig. 2. 代表的な土壌の縦断面図

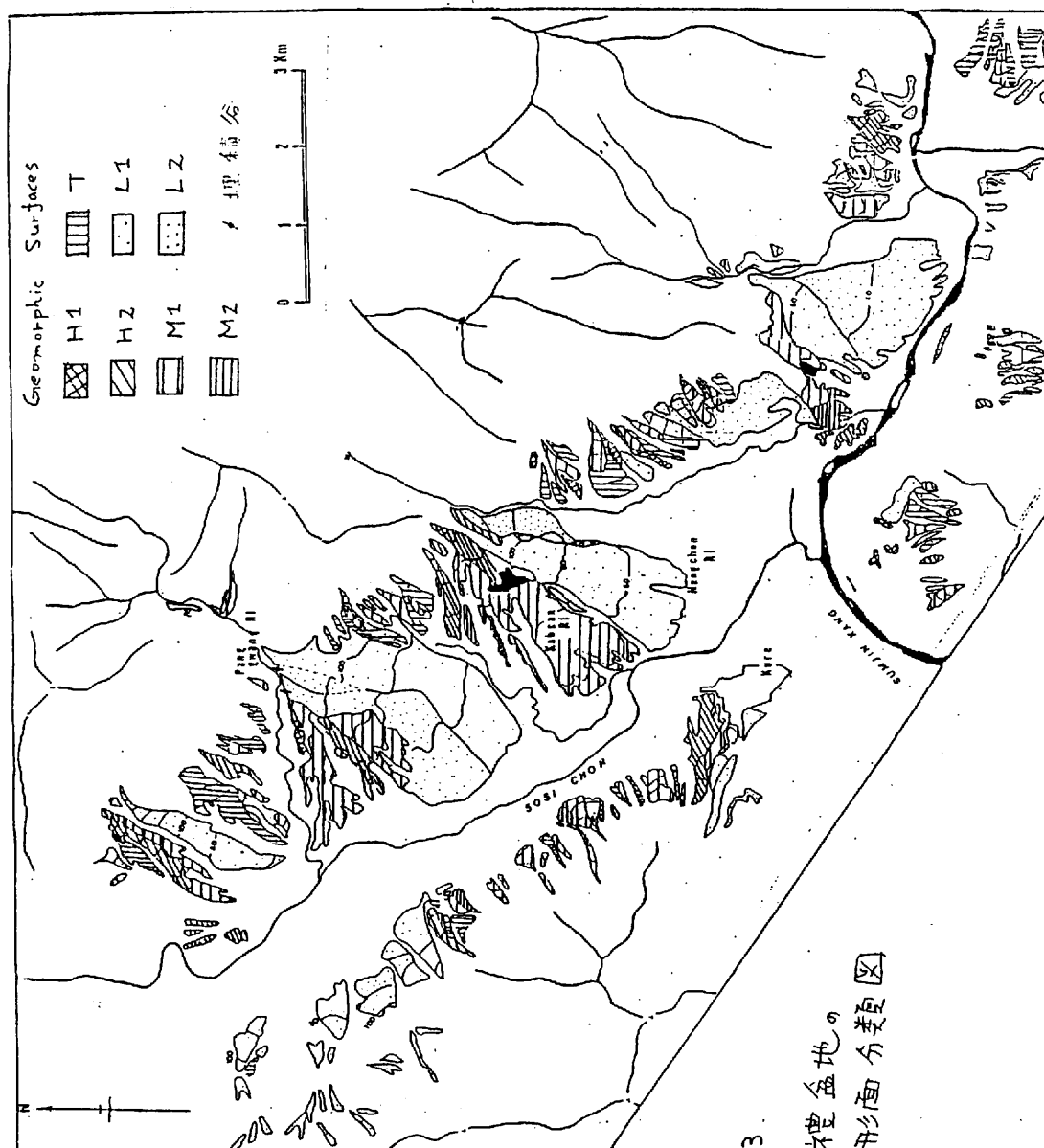


Fig. 3.
求禮盆地の
地形面分類図

北上山地の地形巡検の御案内

執行人 北地人夫(京北大) 田村俊和(京北大)
宮城豊彦(東北学院大)

〇御挨拶

北上山地は、田山先生以来、いくつかのユニークな研究の対象となつて参りましたが、あの充実とした姿は、中々その来歴を垣間見せたくありませんでした。~~しかし~~、しかし、若々しい地形研究者諸兄の力により、最近では、その地形発達史や、特異な風貌を呈するに至った背景について、まとめたお話しができるようになってきました。この理由は、主に Tephrochronology の整備、古い露头、現成 A/A での発見などによるものです。

大方の諸学兄とともに、北上の山懐に足を延ばし、暫し地形談義に花を咲かせたいと思う次第であります。

〇案内者：井上克弘(岩手大)、桧垣大助(建設大)、澤口晋一(明大・院)

〇日程：10月17日(木) 12:30 ~ 18日(金) 18:00 頃

〇行程(予定)：《自動車利用》

10月17日：盛岡駅前 12:30 集合。盛岡——好層——姫神山腹

——大更岩大演習林——沼宮内(泊) ★岩手山東麓の火山灰層中に

見られる化石周水河現象、斜面物質移動期。

10月18日：沼宮内 8:30 ——畑沢——小屋瀬——塚森——

菟川——岩洞——外山大尺山——盛岡 17:30 ★北上山地中、北部の

斜面地形と形成期、現在の砂礫地における物質移動。

地形図：1/20万盛岡、1/5万盛岡、沼宮内、菟川、葛巻、外山

〇足代：10,000 円以内(舌代込み)

〇参加申込み、問い合わせ：9月20日×切。ハガキまたは電話で下記へ。

〒985 (自宅)

官城県七ヶ浜町汐見台 2-4-23 Tel. 022357-5381

(大学) 東北学院大：〒980 仙台市土樋一丁目3番1号

宮城豊彦 宛

受付案内 仙台(0222)64-6411

※車で参加される方は御一報下さい。

